

賀茂真淵， 国学

2017 年本試

問 6 古典を基に日本固有の精神を探究した国学者の説明として最も適当なものを，
次の①～④のうちから一つ選べ。

25

- ① 契沖は，古典を原典に即して読解しようとする実証的な方法により，古代日本の精神を伝える古典として『万葉集』を研究し，その注釈書である『万葉代匠記』を著した。
- ② 荷田春満は，儒学・仏教・神道を通して己の理想的な心のあり方を究明する心学の方法を基にして，古代日本の心を伝える古典として『日本書紀』を実証的に研究した。
- ③ 本居宣長は，『源氏物語』の研究を通して，事物にふれて生じるありのままの感情を抑制する日本古来の精神を見だし，儒学や仏教などの外来思想によって，その精神が失われたと考えた。
- ④ 平田篤胤は，『古事記』の研究を通して，身分の相違や差別のない日本古来の理想世界を見だし，儒学や仏教などの外来思想によって理想世界が差別と搾取の世界へ転じたと批判した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	①	3

2017 年追試

問 6 人間を万物のうちで最も貴い存在と考える儒学を批判した人物に賀茂真淵がいる。次の文章は、彼の思想とその影響についての説明である。[a] ~ [c] に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 [25]

賀茂真淵は、[a] をはじめとした日本の古典のうちに、人間の理想的な姿があるとした。真淵によれば、^{いにしえ}古には人々に理屈めいたところがなかったので、天地に即した道が自然と存在し、国は治まっていた。真淵は、特に [a] に見いだされた [b] の歌風に、古の精神が表れているとした。鳥獣は、古のままで今も変わることなく生きている。一方、人間は自らの知恵で争ううち、理屈めいた中国の流儀に^な馴染んでいったため、国は乱れ、[b] の歌風も失われた。ゆえに、真淵は知恵をもつ人間こそ万物のなかで最も悪い存在だと考えた。真淵の研究は、本居宣長に影響を与えた。宣長は古典に記された神々の事跡のなかに、人間の理想的なあり方を読み取った。宣長はそれを人間の生まれつきの心である [c] に基づく道と考え、当時盛んに行われていた儒学を作り事の道として批判した。

- | | | | | | | |
|---|---|---------|---|--------|---|-----|
| ① | a | 『万葉集』 | b | たをやめぶり | c | 真 心 |
| ② | a | 『万葉集』 | b | たをやめぶり | c | 良 知 |
| ③ | a | 『万葉集』 | b | ますらをぶり | c | 真 心 |
| ④ | a | 『万葉集』 | b | ますらをぶり | c | 良 知 |
| ⑤ | a | 『古今和歌集』 | b | たをやめぶり | c | 真 心 |
| ⑥ | a | 『古今和歌集』 | b | たをやめぶり | c | 良 知 |
| ⑦ | a | 『古今和歌集』 | b | ますらをぶり | c | 真 心 |
| ⑧ | a | 『古今和歌集』 | b | ますらをぶり | c | 良 知 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	③	3

2015 年本試

問 1 次の文章は、神と関わりながら生きて古代の人々の心について述べたものである。□ a □ ・ □ b □ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 □ 20 □

古代において、祭祀の際に求められた、神に対する心の有り様は、□ a □ と呼ばれた。後に近世の国学者たちは、和歌や神話の研究を通じ、仏教や儒教を受容する以前の古代の人々の心を探究した。例えば、賀茂真淵は、『万葉集』の基調として素朴でおおらかな「□ b □」を見いだし、それを理想と考えた。

- ① a 高く直き心 b 清き明き心
- ② a 高く直き心 b 真 心
- ③ a 清き明き心 b 高く直き心
- ④ a 清き明き心 b 真 心
- ⑤ a 真 心 b 高く直き心
- ⑥ a 真 心 b 清き明き心

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	20	③	2

2014 年本試

問 4 儒学者たちが，人間は万物のなかで最も優れた存在であると説いたことに対して，人間は「万物は 悪^あしきもの」であると述べた賀茂真淵の著作として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 『国意考』
- ② 『都鄙問答』
- ③ 『万葉代匠記』
- ④ 『自然真営道』

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	23	①	2

2012 年 追試

問 2 近世の国学者である賀茂真淵が『万葉集』に見いだした日本人の理想的な精神についての説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

14

- ① 素朴で力強く、ありのままを重んじる精神
- ② 仏教や儒教を採り入れ融合させる、寛容な精神
- ③ 対立を避け、調和と秩序を重んじる「和」の精神
- ④ 優しさを重んじる「たをやめぶり」の精神

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	14	①	2

2007 年本試

問 4 儒教的な古典解釈を批判した国学者の一人に契沖がいる。契沖に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① 日本人の心を伝える文献である『万葉集』の研究に取り組み、『万葉代匠記』を著して、古代日本人の精神を学ぶべきだと主張した。
- ② 『万葉集』の研究によって、日本人の心の典型としての「ますらをぶり」を発見し、儒教や仏教が入る以前の古代精神を復活させようとした。
- ③ 『万葉集』や『古事記』などの古典研究の基礎を築き、古語の本来の意味である古義を明らかにしようとする復古神道を開いた。
- ④ 『古事記』などの研究に基づいて『靈能真柱』などを著して、儒教や仏教を強く批判して独自の復古神道を広めた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	17	①	3

2006 年本試

問 1 文章中の 14 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

近世の国学者賀茂真淵は、人間を「万物の霊」と位置づける儒学の教えに対し、むしろ人間は「万物の悪しきもの」なのではないかという疑問を抱き、『14』を著した。

- ① 自然真営道 ② 国意考
③ 立正安国論 ④ 都鄙問答

問 4 賀茂真淵の考える「天地の心」にのっとった生き方として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① 天はそもそも人間にとって測り知ることのできないものだから、無理に学問に努めるのでなく、天から受けた才を活かせるような職分を得て、互いに親しみ愛し合い、助け合って生きる。
- ② 武士や商人は、天の恵みを受けて農民の耕作したものを不当に搾取しているから、そうした身分階級を打ち破って、すべての人が衣食住を自給する「自然世」に生きる。
- ③ 生きとし生けるものすべてが歌を歌うように ^{いにしえ}古の人々も心のありのままに歌を歌っていたのだから、古の歌を通じて当時の人々の心と同化し、心のありのままに生きる。
- ④ 人間には士農工商の身分があるが、それぞれ「天の一物」であることに変わりはないのだから、もって生まれた己の本来の心を悟り、「天地と ^{こんぜん}渾然たる一物」となって生きる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問1	14	②	2
第3問	問4	17	③	3

2002 年本試

問 4 賀茂真淵が『万葉集』に見いだした「日本人の理想的な精神」の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 素朴で力強く，おおらかさを重んじる精神。
- ② 対立を避け，調和と秩序を重んじる「和」の精神。
- ③ 優しさを重んじる「たをやめぶり」の精神。
- ④ あらゆる外来思想を融合させた精神。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	25	①	3

2000 年追試

問 2 林羅山の考え方と賀茂真淵の考え方との背景には共通の思想があったと考えられる。その思想についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

- ① 自然法爾じねんほうにのはたらきを信じれば、煩惱を捨てることができなくても人間は救済されうることを説いた。
- ② 無為自然の生き方にたって、富や名誉への執着をおさえ、人と争わずに無理なく生きることを説いた。
- ③ 花鳥風月の姿をめで、毎年繰り返される季節の推移と対比して人の世の無常を説いた。
- ④ 知行合一の実践論に基づき、一介の庶民であっても自然界の一員としてその将来に責任を負っていると説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	24	②	3